

CODE : 7771

**NI** NISSEY GROUP

2014年3月期 第2四半期 決算説明資料 2013年11月



日本の“ものづくり技術”を世界へ。

Watch Band & Glass Frame



**会社概要**

**2014年3月期 第2四半期 業績の状況**

**2014年3月期 業績予想**

**今後の戦略**

# 会社概要

- ◆ 社 名 : 日本精密株式会社 (Nihon Seimitsu Co., Ltd.)
- ◆ 住 所 : 埼玉県川口市本町4-1-8 川口センタービル8
- ◆ 設 立 : 1978年8月
- ◆ 上 場 : 東京証券取引所JASDAQ市場 (1997年9月25日)
- ◆ 代表取締役 : 岡林 博
- ◆ 事業内容 : 時計バンドの製造、販売, メガネフレームの製造、販売, イオンプレーティング (表面処理加工), 釣具用部品、静電気除去器、その他製品の製造、販売
- ◆ 連結子会社 : 4社、関係会社1社
- ◆ 従業員 : 2,809人(連結)
- ◆ 決 算 : 3月
- ◆ 資 本 金 : 1,565百万円
- ◆ 発行株式数 : 15,423,999株
- ◆ 株 主 数 : 1,184名





**会社概要**

**2014年3月期 第2四半期 業績の状況**

**2014年3月期 業績予想**

**今後の戦略 ASEAN Project**

# 2014年3月期 第2四半期累計期間 連結業績概要

## 売上高

円安効果もあり前年同期比で大幅増収

- 時計関連は、カシオ向け欧州向けともに増収
- メガネフレームは、本社部門、子会社(株)村井は増収ともに増収

## 営業利益

粗利増加でマイナス要因を吸収し黒字化

- 増収効果により、粗利益が拡大
- 人件費の増加
  - ・ベトナムの給与手当増(最低賃金法改正)
  - ・ベトナム工場の残業代の増加
  - ・円安の影響
- (株)村井の契約更新に伴うロイヤルティ増

## 四半期純利益

経常損失の縮小により、赤字額が縮小

- 経常損失の縮小。
- 特損計上がなく、赤字額が縮小

単位:百万円	2013/3期 2Q累計 実績	2014/3期 2Q累計	
		実績	前期比
売上高	2,660	3,337	+676
売上総利益	688	795	+107
売上総利益率	25.9%	23.8%	△2.1p
販管費	735	792	+57
販管費比率	27.6%	22.7%	△4.9p
営業利益	△46	3	+49
営業利益率	△1.8%	0.1%	+1.9p
経常利益	△63	△9	+53
経常利益率	△2.4%	△0.3%	+2.1p
四半期純利益	△53	△12	+41
当期純利益率	△2.0%	△0.4%	+1.6p

# 報告セグメントの状況 (連結)

## 報告セグメント別売上高

単位:百万円

2Q累計	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
時計関連	1,148	1,456	1,819	1,660	2,147
カシオ向け	893	1,265	1,448	1,321	1,650
スイス・メーカー向け	255	191	371	339	496
メガネフレーム	654	806	929	835	1,034
その他	187	168	180	163	154
連結売上高	1,990	2,431	2,930	2,660	3,337

## 報告セグメント別利益

単位:百万円

2Q累計	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
時計関連	△7	27	138	14	74
メガネフレーム	△80	△55	12	△68	△74
その他	4	△4	5	△2	△6
報告セグメント外	—	26	17	10	9
連結営業利益	△83	△5	181	△46	3

※当期よりセグメント名称を「時計バンド」から「時計関連」に変更しております。

※カシオ関連には、カシオ製品向け部品の製造企業に対する売上高も含まれております。

### ◎時計関連

- ・カシオ向けは、同社の更なる事業拡大に伴う増産と、新規及びリピートオーダーの受注増、さらに円安効果も加わり大幅増。
- ・スイス・メーカー向けは、提案営業の強化による中級品の受注増により大幅増。

### ◎メガネフレーム

- ・本体のメガネフレーム部門(OEM製品)は、国内メーカーからの受注増、大手チェーン店向けの提案営業による受注増により2.7倍増。
- ・(株)村井のブランド商品は、新ブランド投入効果等により大手チェーン店向けが拡大。

### ◎時計関連

- ・増収による粗利益の増加により、ベトナム工場の人件費増を吸収して増益。

### ◎メガネフレーム

- ・(株)村井のロイヤルティ更新に伴う費用増、円安による仕入コストの上昇等により減益。

# B/S、CFの状況（連結）

単位:百万円	2013/3末	2013/9末
<b>流動資産</b>	<b>2,522</b>	<b>2,522</b>
現預金	799	677
受取手形・売掛金	826	801
たな卸資産	842	958
その他	54	84
<b>固定資産</b>	<b>1,056</b>	<b>1,552</b>
有形固定資産	661	978
無形固定資産	302	475
投資その他の資産	92	99
<b>総資産</b>	<b>3,578</b>	<b>4,075</b>

<b>流動負債</b>	<b>1,314</b>	<b>1,804</b>
支払手形・買掛金	598	696
短期・1年内長期借入金	562	913
その他	153	194
<b>固定負債</b>	<b>645</b>	<b>661</b>
<b>純資産</b>	<b>1,619</b>	<b>1,609</b>
株主資本	1,623	1,610
その他の包括利益累計額	△3	△1
<b>負債純資産合計</b>	<b>3,578</b>	<b>4,075</b>

単位:百万円	2013/3期 2Q累計	2014/3期 2Q累計
<b>営業キャッシュ・フロー</b>	<b>92</b>	<b>64</b>
税前当期純利益	△48	△9
減価償却費	51	63
売上債権の増減額	30	24
たな卸資産の増減額	23	△115
仕入債務の増減額	18	98
その他	35	32
<b>小計</b>	<b>110</b>	<b>92</b>
利息及び配当金の受取・支払額	△12	△18
法人税等の支払額	△5	△10
<b>投資キャッシュ・フロー</b>	<b>△107</b>	<b>△598</b>
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>△15</b>	<b>△533</b>
<b>財務キャッシュ・フロー</b>	<b>△50</b>	<b>358</b>

## カンボジア新工場の建設に伴う影響

- ・有形固定資産:建設仮勘定 342百万円増
- ・無形固定資産:借地権 177百万円増

- ・短期借入金:350百万円増  
(カシオから長期借入れを行うまでのつなぎ融資)



**会社概要、事業紹介**

**2014年3月期 第2四半期 業績の状況**

**2014年3月期 業績予想**

**今後の戦略 ASEAN Project**



# 2014年3月期のポイント

## 事業

### ◎ カンボジア工場の立上げ

- ・2014/3期上期に着工。ベトナム工場との連携し、2014年初から稼働開始。

### ◎ 時計関連

- ・カシオ関連の事業規模拡大により、高付加価値製品の受注が拡大。

### ◎ メガネフレーム

- ・前期に投入した新ブランド商品の売上高が拡大。

## 業績

### ◎ 連結業績予想の増収・増益

- ・連結売上高については、過去最高を更新する見込み。
- ・連結営業利益については、増収効果や利益率改善で前期比で倍増見込み。

### ◎ 各報告セグメントでも増収・増益を予想

- ・時計関連、メガネフレーム、その他の各報告セグメントで増収・増益を予想。  
※その他のセグメント利益については、赤字の縮小。

### ◎ カンボジア工場の費用が発生するものの吸収

- ・新工場の立上げに伴い、新たな減価償却費、稼働に伴う諸費用が発生。
- ・上記の費用を全社収益の向上で吸収。
- ・本格稼働となる2015/3期以降は、早期に収益に貢献する見込み。

# 2014年3月期 連結業績予想

## 2014年3月期 通期 連結業績予想

単位:百万円	2013/3期 実績	2014/3期	
		予想	前期比
売上高	5,585	6,547	+962
営業利益	103	230	+127
経常利益	105	196	+91
当期純利益	90	175	+85

## 2014年3月期 下半期 連結業績予想

単位:百万円	2013/3期 下半期 実績	2014/3期 下半期	
		予想	前年同期比
売上高	2,925	3,210	+285
営業利益	149	233	+84
経常利益	169	225	+56
四半期純利益	103	187	+84

### 売上高

- 時計関連、メガネフレーム、その他全てのセグメントで増収を予想。
- 結果、連結売上高は、過去最高を更新する見込み。

### 営業利益・経常利益

- 人件費等については、当期も増加。
- 加えて、カンボジア工場の立上げ費用が発生。
- 上記要因により、営業費用の増加が見込まれるものの、増収効果・利益率の改善により増益を予想。

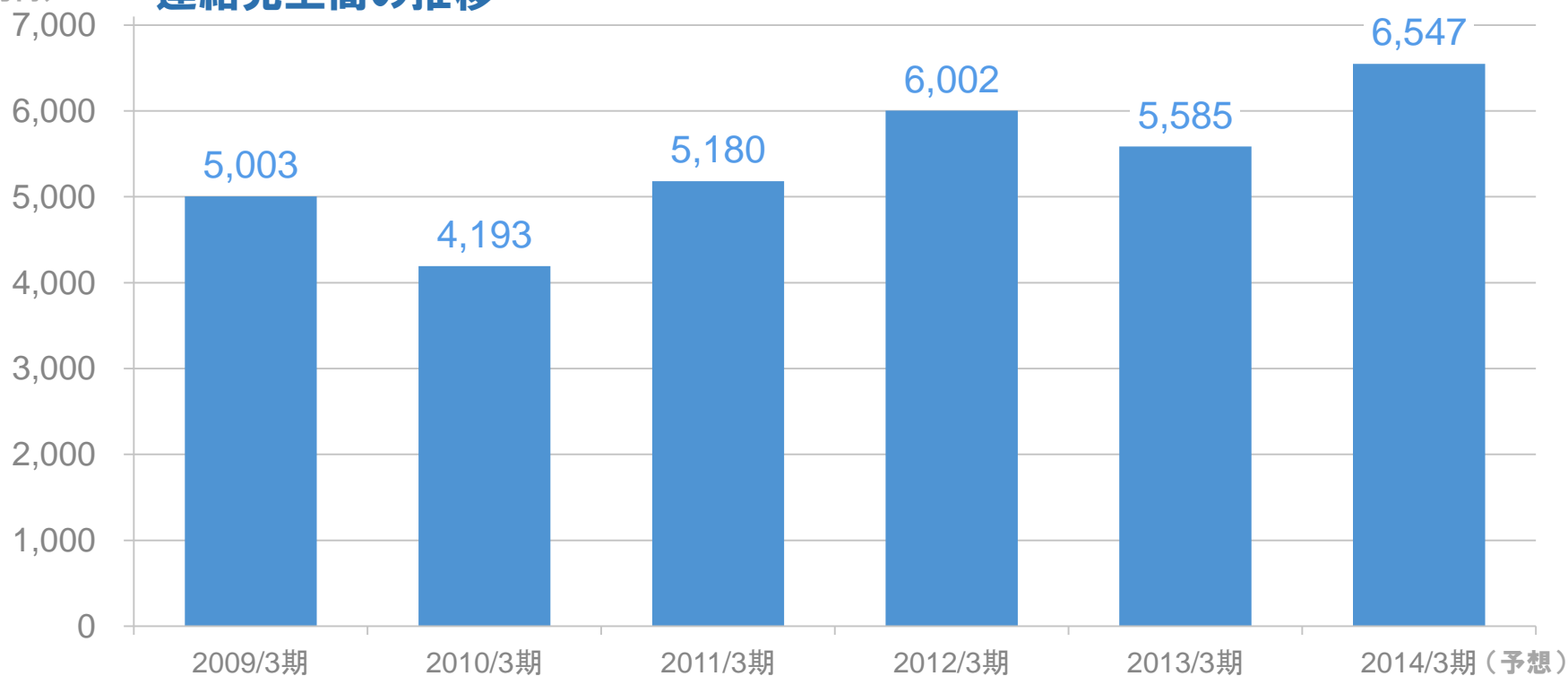
### 当期(四半期)純利益

- 経常利益の増加により、増益を予想。
- 当期も税務上の繰越損失が有るため、法人税の支払額は微小。

# 業績推移

(百万円)

## 連結売上高の推移



売上高	5,003	4,193	5,180	6,002	5,585	6,547
営業利益	144	△39	207	334	103	230
経常利益	150	△56	156	295	105	196
当期純利益	43	△52	172	296	90	175

# 報告セグメントの業績予想（連結）

## 報告セグメント別売上高予想

	2013/3 実績	2014/3 予想	増 減
時計関連	3,350	3,923	+573
メガネフレーム	1,953	2,322	+369
その他	282	301	19
連結売上高	5,585	6,547	+962

## 報告セグメント別利益予想

	2013/3 実績	2014/3 予想	増 減
時計関連	108	145	+37
メガネフレーム	2	93	+91
その他	△28	△18	+10
報告セグメント外	21	10	△11
連結営業利益	103	230	+127

### ◎時計関連

- ・カシオ向けは、同社の事業規模の拡大に対応し、ベトナム工場の設備増強。受注高の増加により増収を見込む。
- ・スイス・メーカー向けは、欧州の景気低迷が続くものの、提案営業の強化で微増を見込む。

### ◎メガネフレーム

- ・本体のメガネフレーム部門(OEM製品)は、提案営業の強化で微増を見込む。
- ・(株)村井のブランド商品は、前期に投入した新ブランドの販売強化等により増収を見込む。

### ◎時計関連

- ・ベトナム工場の人件費増はあるものの、生産効率の向上等により利益率を上昇。カンボジア工場の立上げ費用を吸収し、増益を見込む。

### ◎メガネフレーム

- ・(株)村井の新ブランド投入に効果による増収等により、大幅増益を見込む。



会社概要、事業紹介

2014年3月期 第2四半期 業績の状況

2014年3月期 業績予想

今後の戦略 ASEAN Project

# 当社を取り巻く環境

## 顧客動向・ニーズ

- ◆ 生産の2極化体制への対応  
国内生産:高付加価値商品、少量多品種の生産  
海外生産:低価格、大量生産
- ◆ 中国でのカントリー・リスクの軽減 (CHINA+1)
- ◆ 今後の海外生産拠点の新設・移設への対応
- ◆ 高品質製品の長期的な安定的供給
- ◆ 製造原価の低減に向けた、さらなる部材コスト削減

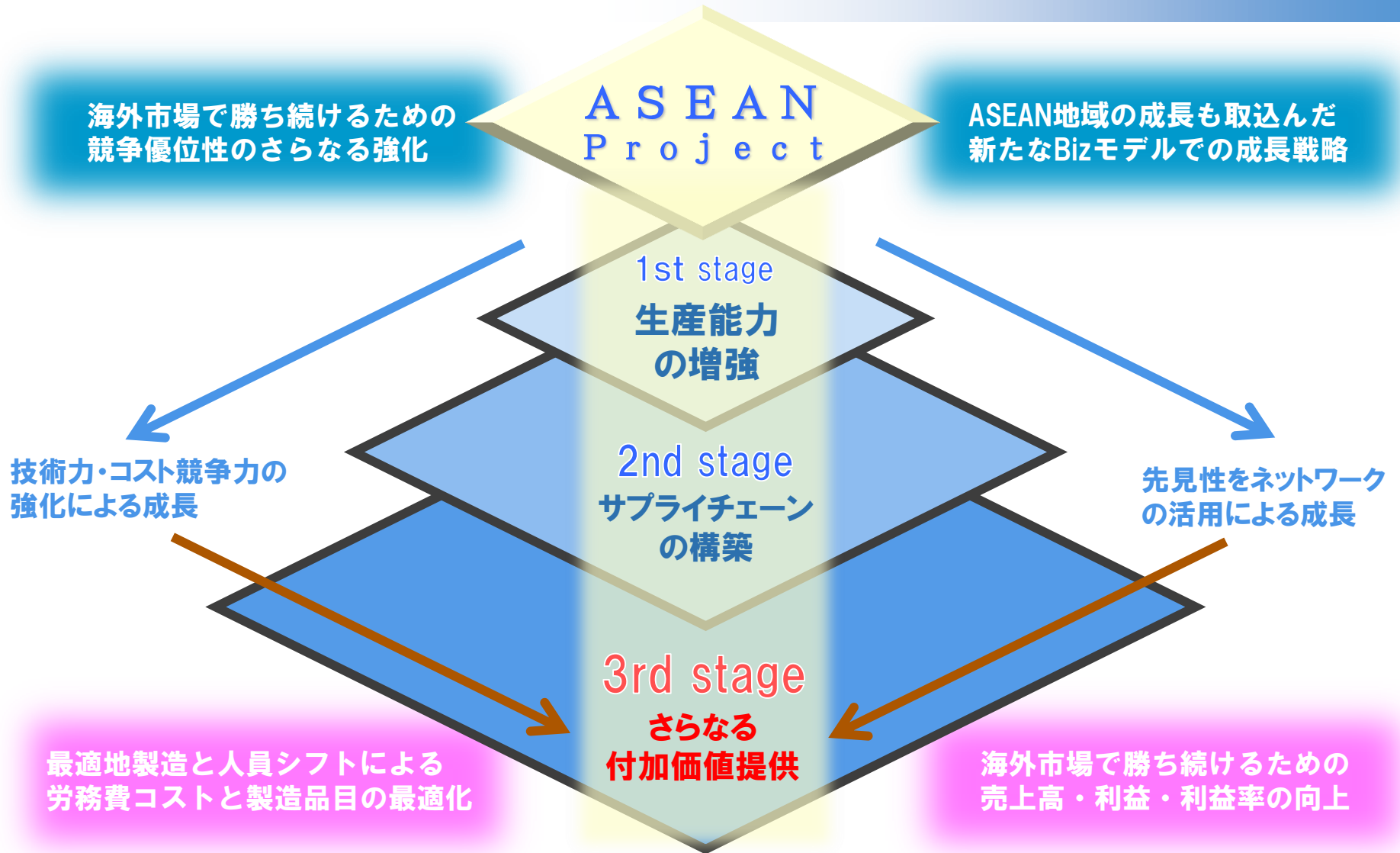
## 当社のテーマ

- ◆ 顧客ニーズに対応する提案・生産・調達力の強化  
国内:技術・品質管理力の向上、トータル計画の提案  
海外:海外の委託工場・協力工場の拡充
- ◆ ASEAN地域での生産体制の拡充
- ◆ 海外でのサプライチェーン構築
- ◆ 一貫生産体制の更なる強化
- ◆ コストの低減に向けた新たな戦略推進

既存の体制・ベトナム工場での生産による対応では不十分

顧客・事業・市場の動向を睨み、新たな戦略構築が必要

# 当期より『ASEAN Project』を策定・スタート



# 1st Stage

## カンボジア新工場を設立



名 称	NISSEY CAMBODIA CO.,LTD.
操業予定	2014年 年初から
所 在 地	Dragon King SEZ, Prey Angkunnh Commune, Bavet City, SvayRieng province, Cambodia ドラゴンキング SEZ、カンボジア国スバイリエン州 バーベット市プレイアングン地区
代 表 者	岡林 博
資 本 金	5千万円
出 資 者	日本精密株式会社(100%)
決 算 期	12月31日
事業内容	時計外装部品等の製造、販売

### Point

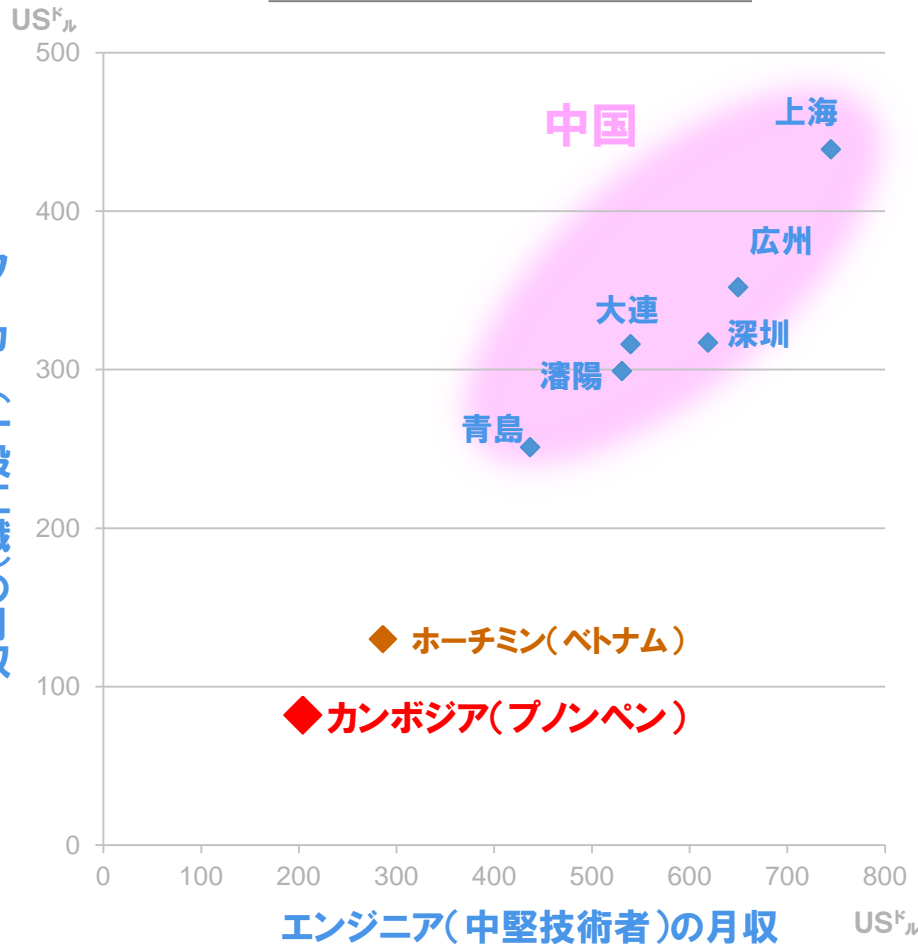
- ① **ベトナム工場とのシナジーによる早期稼働**  
ベトナム工場の技術者を通じ、加工技術、製造工程を迅速かつ正確に移管。
- ② **物流コストの大幅な削減**  
既存ベトナム工場と地理的に近い距離にあり、他の地域に比べて物流コストの大幅削減が可能。
- ③ **主要客先からの要望**  
主要客先からのASEAN地域での事業拡張戦略を要望に対応することで、一層の関係強化及び事業拡大が可能。
- ④ **主要客先からの資金面の協力**  
カシオ計算機(株)は、今後、同工場で生産されたから高品質製品が供給されることを評価し、資金面での協力。



# 1st Stage

## カンボジア新工場を設立 ～ 労務コストの低減

各国の人件費(平均月収)比較



出所:日本貿易振興機構 海外調査部

『アジア・オセアニア主要都市・地域の投資関連コスト比較』

### 中国

**コスト・その他の問題で、内外の製造メーカーの流出が続く**

- ・人材確保:2次産業から3次産業への労働人口シフトが進む。2次産業においても、自動車や電子機器などのより高付加価値製品の分野にシフト。また、来年以降は労働人口自体も減少開始。
- ・人件費:ワーカークラスでも、既に500ドル近くまで上昇。来年以降も年率10%以上の上昇が見込まれる。

### ベトナム

**製造拠点として重要性は増すものの、新たな対応が必要**

- ・人材確保:勤勉で優秀な若年労働層は豊富。しかし、進出企業の増加で、今後は優秀な人材の確保が、より困難になることも予想される。
- ・人件費:現在は中国の約1/2であるが、最低賃金の上昇が続き、来年も15%以上の上昇が見込まれる。

### カンボジア

**新たな製造拠点として、今後ますます重要性が増す**

- ・人材確保:豊富な若年労働者が存在
- ・人件費:現在はベトナムの7割、中国の1/4。今後は上昇する見込みであるものの、依然として比較優位性は高い

# 1st Stage

## カンボジア新工場を設立 ～ 労働集約型製品の高利益化

現在はベトナム工場で製造している“絞りベゼル”を  
今後はカンボジア工場に順次移管。

顧客からの需要増に対応しつつ、  
労働集約型製品“絞りベゼル”の  
利益率を向上を図る。

2016～  
現在は他社へ発注されて  
いるベゼルの取り込み

2015～  
ベトナム工場から絞りベゼルの  
生産を一部移管

2014～  
ベトナム工場とのシナジー  
による早期稼働

月産  
3～4万個

月産  
10万個

月産  
25万個

さらに、他社への発注分を  
取り込み、生産規模を実現  
することで、低い労務コスト  
と相まって利益向上を目指す。

※現在のベトナム工場：月産18万個強



絞りベゼル

需要増に対する  
生産量力の拡大

労働集約型製品の  
集約による利益率向上

生産量の拡大による  
利益額・利益率向上

# 1st Stage

## 基幹工場であるベトナムの強化

今後もASEANプロジェクトの核となるベトナム工場の強化に向けて、以下の施策を実施

### ① 半自動化・オートメーション化

・今後のさらなる生産能力の拡大、生産効率の向上、利益率アップに向けて自動化を推進。

→ 当期の期初から既に設備投資を開始

### ② 金型製作の強化

・金型製作の技術・生産効率をさらにアップ  
・カンボジア工場用も一括製作し、経営効率をアップ  
→ 今後の製造品目・数量の増加へ対応すると同時に、原価率を低減

### ③ 高度技術の強化、高付加価値製品の製造

・より高い付加価値製品である『鍛造ベゼル』を製造  
・表面処理(IP、アルマイトなど)の技術をさらに強化  
→ 市場・顧客のニーズに応えた高付加価値製品の製造

### ④ 新規製品の製造

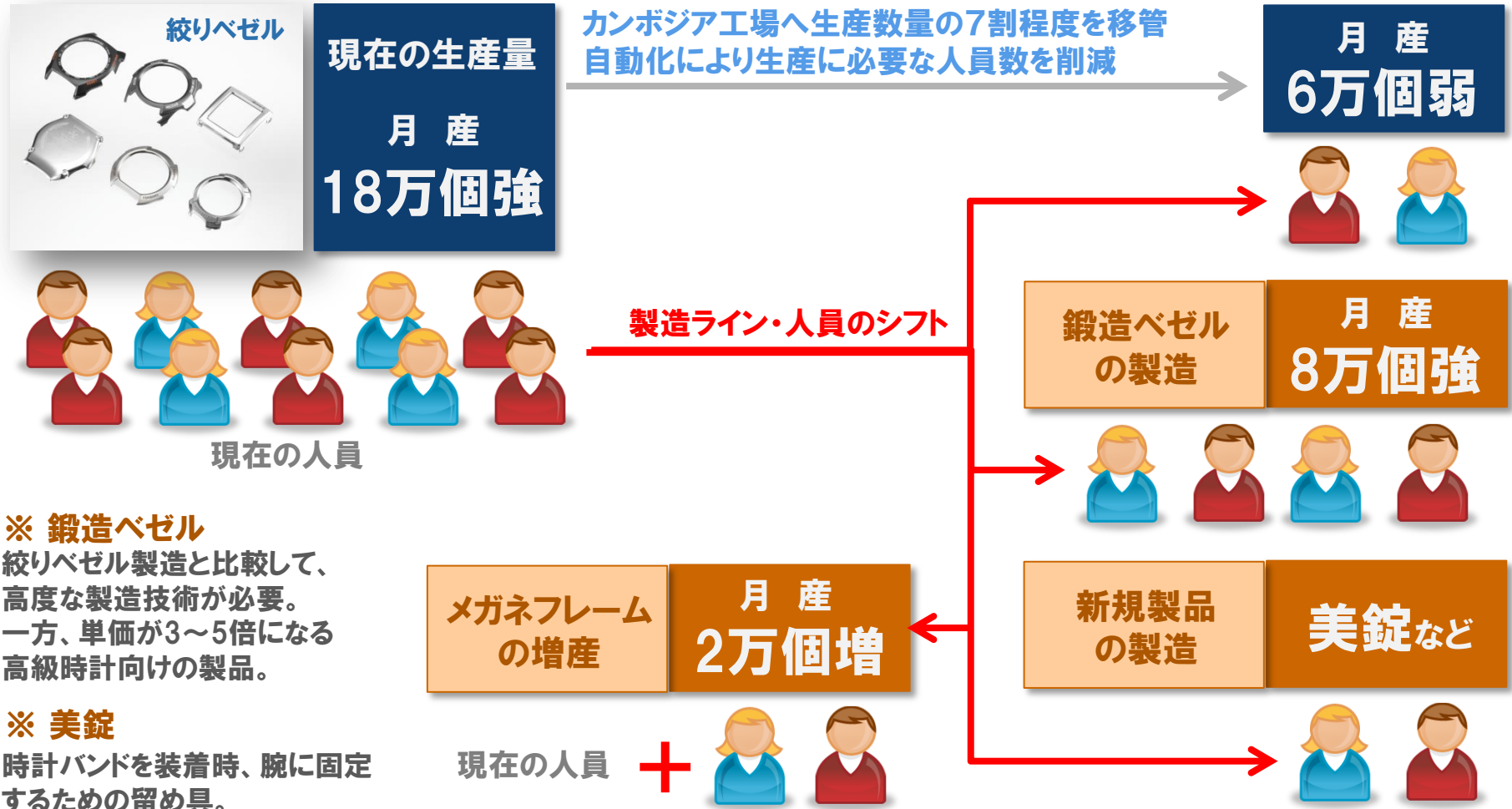
・新たに『美錠』など時計関連の製品を製造  
→ 顧客のニーズに応え、新たな製品分野にも進出



## 1st Stage

## 基幹工場であるベトナムの強化 ～ 利益向上への取り組み

労働集約型の製品の製造をカンボジアに移管。製造ライン・人員のシフトにより利益率を向上。



# 1st Stage

## ハイエンド製品～ミドル・ローまで

高 ← 製品価格帯 → 低  
必要技術・生産設備

売上増:あらゆる価格帯への対応  
利益増:シナジーによる利益率向上

### 自動化

生産効率向上に向けた、さらなる自動化

### 高度技術

金型・表面処理  
IP・アルマイト等の技術強化

### ローコスト

普及品の生産に求められる  
低コスト生産

### 労働集約型

賃金水準の低さを活用した  
生産体制

### ベトナム工場

- ・金型の製作
- ・高付加価値製品の製造  
(高級価格帯向け製品)
- ・技術開発 など

### カンボジア工場

- ・ローコスト製品の製造  
(普及価格帯向け製品)

### 日本精密

工程削減に向けた  
提案営業  
コスト管理

技術指導・金型の送付

労働集約型の生産工程を行い、ベトナム工場に

## 2nd Stage

# サプライチェーンの構築 ~ ASEAN優位の背景



### 中国内工場の諸事情

#### チャイナ・リスクの回避

日系のセット・メーカー等が、チャイナ・リスクを回避するため生産拠点戦略をASEANにシフト。  
関連部品を生産する中国工場もASEAN移転が必要に。

#### コスト削減への対応

年々、中国の平均賃金が上昇。  
より一層の製造コストを削減を実現するため、ASEANへの工場移転を検討。

**外資系だけでなく、相次いで中国系企業も海外移転**

**中国から移転**

縫製

部品

加工

アッセンブリ

最終製品

当初は衣料品の縫製工場等から始まり、  
現在では各種工業部品の製造工場も次々と海外移転。

さらには、最終製品のセット・メーカーの工場も、ASEANを中心とした地域への海外移転が始まる。



## 2<sup>nd</sup> Stage

# サプライチェーンの構築 ~ カンボジアへのメーカー誘致

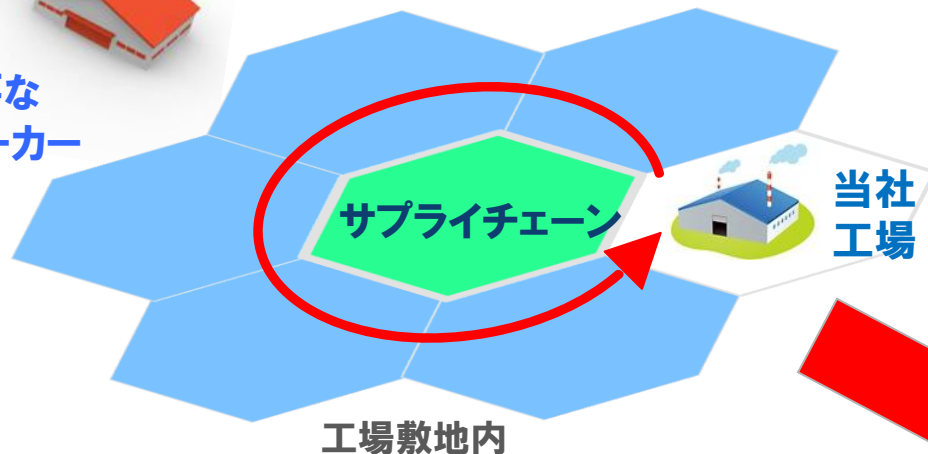
腕時計部品



129,600m<sup>2</sup>\*の広大な当社のカンボジア工場敷地内に自社工場の他、現在は中国内にある当社の協力工場等を誘致

\*129,600m<sup>2</sup>:当社ベトナム工場の約5.7倍(東京ドームの約2.8倍)の面積

①時計製造に必要なあらゆる部品メーカーを敷地内に誘致



②当社工場を中心としたサプライチェーンを構築

③当社(カンボジア法人)が顧客の需要を取りまとめ一括受注

④検品業務等も含め顧客に一括して販売

**顧客企業**

現在も、当社が製造しない部品の調達・販売は香港支店で行っているが、それをカンボジアに集約して効率化を図る。さらには取扱量の拡大により、収益増を目指す。

# 3<sup>rd</sup> Stage

## さらなる付加価値提供～ アッセンブリした製品納入

サプライチェーン内で主要部品が調達。調達した部品を同敷地内で組立て(アッセンブリ)後に出荷することにより、より高い付加価値の提供と収益の向上を図る。



現状の枠を超えた収益の拡大

カンボジアで構築したサプライチェーンを利用し  
敷地内でアッセンブリ(組立て)後に顧客へ



# ASEANプロジェクトの推進による成長戦略を推進

## ASEAN地域を一体と考えた 戦略的生産体制を構築



### 本社(埼玉県川口市)

経営の根幹である経験豊富な人間力で、企画開発・販売計画など、全てを一元管理。また、一貫した経営管理によりコスト削減。

(株)村井:連結子会社

エヌエスジー(株):連結子会社

### 香港支店

ベトナムでの製造不可能な部品を低コストで中国より調達。また営業・販売の基点として重要な役割を今後も担う。

### NISSEY VIETNAM CO.,LTD.

- ◎時計外装部品等の製造
- ◎メガネフレームの製造
- ◎釣り具部品等の製造 他

### 中・高級品向け製品を製造

同時に、今後も当社グループの技術開発の中心としてさらに強化

### NISSEY CAMBODIA CO.,LTD.

- ◎時計外装部品等の製造

### 普及品向け製品を製造

将来的には、隣接地に協力工場等を誘致し、  
一大サプライチェーンを構築

# ASEANプロジェクトの推進による成長戦略を推進

## カシオ向け

絞りベゼル(自社製品)

現状(2014/3期見込)

月産18万個強

目標(2018/3期計画)

月産30万個強

ベトナム 6万個弱  
カンボジア25万個

鍛造ベゼル(自社製品)

生産なし

月産8万個強

バンド他(自社製品)

約7億9千万円

約9億5千万円

時計関連商品(他社製品)

約17億円

約25億円

## その他時計メーカー向け

約6億9千万円

約7億8千万円

## メガネフレーム

自社製品

年産35万本強

年産50万本以上

株村井

17億8千万円

24億円

## その他製品

フィッシング・パーツ他

約3億円

約3億6千万円

営業費用に関しては、カンボジア分は純増、ベトナムは人員増はないものの賃金上昇等により増加、日本については増加するものの売上連動ではないため影響は軽微、村井は売上増に伴う仕入原価・販促費等が増加することを見込んでおります。

# 5年後の利益目標

## 連結

単位:百万円	2013/3	2014/3 今期見込
売上高	5,585	6,547
■ 時計関連	3,350	3,923
■ メガネフレーム	1,953	2,322
■ その他	282	301
営業利益	103	230
経常利益	105	196
当期純利益	90	175

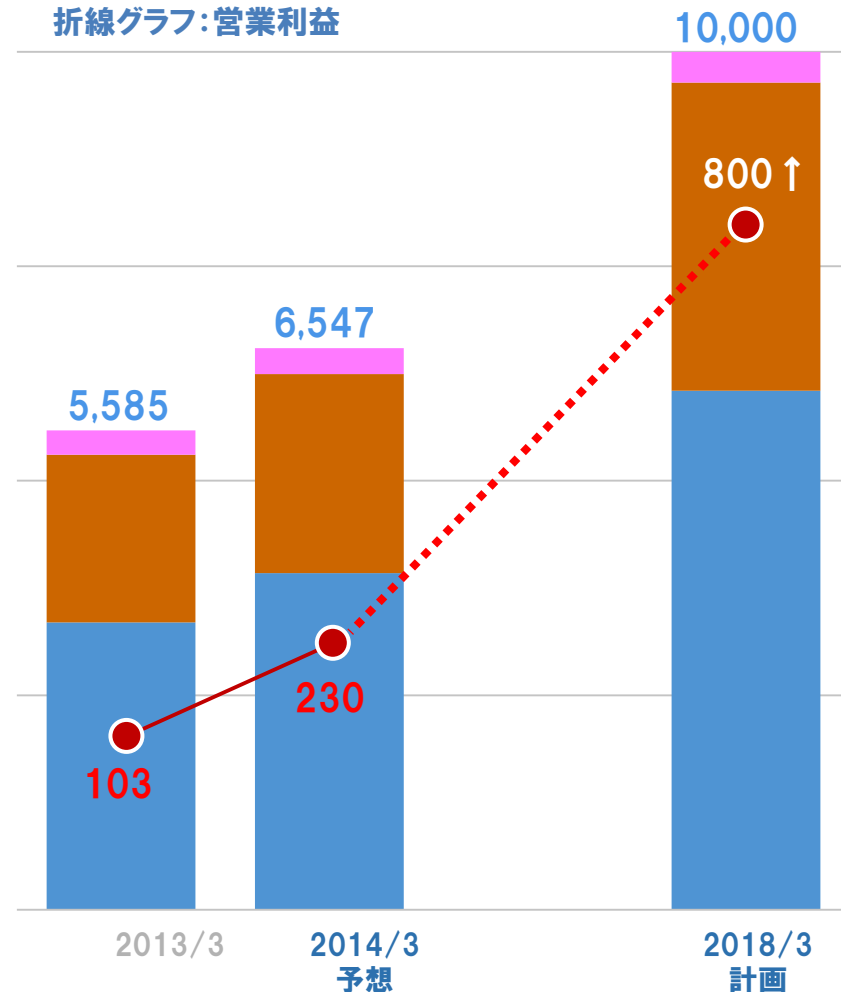
EPS	5.96円	11.50円
営業利益率(%)	1.8%	3.5%



2018/3 計画	10,000
	6,050
	3,590
	360
	800 + α
	700 + α
	600 + α

	39円 以上
	8%以上

棒グラフ : 売上高  
折線グラフ: 営業利益



CODE : 7771



# 日本精密株式会社



日本の“ものづくり技術”を世界へ。

Watch Band & Glass Frame

本資料は、2014年3月期第2四半期累計期間の業績概要および2014年3月期業績予想、並びに今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は注記のない限り2013年9月30日現在の決算データ及び直近の事業データに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測などは、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。